別紙様式

令和6年度　宇部市立東岐波小学校　学校評価書　　校長(佐野英之)

1　学校教育目標

教育目標・・・・・ふるさと東岐波を愛し、夢の実現に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成　～「いのち」を大切にし、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てる特色ある学校～
中・長期目標・・・「自ら　社会とかかわり　自分を生かす　東岐波っ子の育成」　～10年後の地域・社会を支える存在をめざして～（小中一貫教育目標）

2　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

○学力向上や学習習慣の課題について
・各学年とも学力に関して課題があり、学力向上や授業改善に向けた研修の充実とともに、保護者・地域と一体となった取組も必要である。さらに、特別支援教育の視点に基づくユニバーサルデザインの手法を取り入れ、誰一人取り残さない学習指導を行うことが求められる。
・家庭学習の時間が短かったり、宿題を忘れたりして、目的が十分に達成できていない。ICTを積極的に活用し、児童自らが主体的に学習する習慣と家庭の協力がより求められる。
・体験を重視した小中9年間の地域連携カリキュラムを児童、保護者、地域へより一層周知し、PDCAサイクルに基づいて検証するとともに実施し、付けたい力を常に意識した授業づくりが重要である。
○生徒指導上の課題について
・児童が生活目標を自分事としてとらえ、達成状況を主体的に判断するよう指導を継続し、教育活動全体で自己肯定感や自己有用感を育むことが引き続き大切である。
・小さなトラブルは日々見られ、目標への意識が薄い児童もいる。学級担任、生徒指導・教育相談担当等との密接な連携を基に、チーム東岐波による学年支援体制や全校支援体制の一層の充実と家庭への協力を図る。
・いじめ、不登校等の未然防止のため週1回の生活アンケート等による児童のサインの早期発見・早期対応に継続して努めるとともに、情報共有と組織的な対応を図る。また、ふれあい教室の運営を充実させる。
○業務改善の課題について
・時間外在校等時間は短縮傾向にあるが、月45時間を超える教員も数名おり、依然として厳しい状況にある。校務のICT化とともに、校時表の見直し等、さらなる業務改善策が引き続き必要である。

3　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

■1　小中一貫教育で、学力の向上を図る。（授業の「ねらい」と「振り返り」、ICTの効果的な活用、やまぐち学習支援プログラムの活用、地域連携教育の充実）
■2　教員の授業力向上に向けて、校内研修の活性化を図る。（単元内自由進度学習の取組、教科担任制、巡回授業、交換授業、外部講師の招聘、計画的な人材育成）
■3　心に響く道徳教育、人権教育、キャリア教育の充実を図る。（小中一貫教育グランドデザインの取組、家庭・地域との連携強化、人権参観日と講演会の実施）
■4　遅刻、不登校、いじめゼロの学校の実現をめざす。（「ふれあい教室」の運営の充実、関係各所との連携、アンケートの実施）
■5　児童の体力の向上を図る。（1校1取組の推進、体力向上メニューの取組、児童会の主体的な活動、安全教育の充実）
■6　小中一貫教育で、基本的生活習慣の育成を図る。（小中一貫教育グランドデザインの周知、中学校・家庭と連携した「メディアコントロール」「早寝・早起き・朝ごはん」の取組）
■7　保護者・地域の理解と協力を得ながら、時間外在校等時間の削減や働き方改革について検討と改善を図る。（関係各所との連携、業務改善の工夫）

4　自己評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	5　学校関係者評価 学校関係者からの意見・要望等	評価
学習指導（知）	○じっくり考え、進んで学習に取り組む子どもの育成 ○通常学級、通級指導も含めた特別支援教育の充実	・「主体的・対話的で深い学び」を追究し、単元内自由進度学習の取組や学力分析結果等を通して授業改善を図る。 ・ICTを活用し、学習の焦点化・視覚化などユニバーサルデザインの視点を加え、誰一人取り残さず、児童が安心して参加できる授業づくりを行う。	・児童アンケート「授業が分かりやすい」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満 ・保護者アンケート「お子様はタブレットを操作できる」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	4 4	・教員の一人一授業公開（主に単元内自由進度学習）や学年を単位とする教科の交換授業、巡回授業等を積極的に行い、児童が意欲的に取り組む授業づくりに取り組んだ。また、学力調査の分析結果や長期研修者の研究成果等を反映させ、授業改善に取り組んだ。（わかりやすい・・・84.8%） ・ICTを学校の授業だけでなく家庭でも日常的に学習ツールとして活用できるように3年生以上は持ち帰りを行った。基礎的な学習内容の定着のほか、情報をやり取りするためのツールとしても活用しており、児童の表現力の向上と個別最適な学びの充実をめざしたい。（タブレット操作・・・95.5%）	・結果が一部伴っていないところはあるが、現在の取組を改善しながら継続していけばよい。 ・学力向上に向けたプロセスはよくできている。 ・約15%の否定的な評価の児童に対してどのような指導、支援を行うかを検討する必要がある。	A
生徒指導（徳）	○素直で、思いやりのある子どもの育成 ○楽しい学校生活の実現	・学級の枠を越えた学年や全校的な視野で人権教育や道徳教育、特別活動に取り組み、豊かな人権感覚を育む。 ・不登校やいじめの未然防止を図るとともに、学校全体であたたかい人間関係をつくる。	・児童アンケート「相手を思いやる言葉遣い（ふわふわ言葉）」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満 ・保護者アンケート「学校生活は楽しい」のプラス評価 4　90%以上　　3　70%～90% 2　50%～70%　　1　50%未満	3 4	・ふわふわ言葉を使っているという児童の割合は昨年度同程度で、80%には届かず、保護者の肯定的な回答も昨年度同様に児童より低い。家庭への啓発と協力による学校外の場での意識付けや習慣付けが必要であり、課題でもある。（相手を思いやる言葉・・・78.4%） ・道徳教育では、各学年で「巡回授業」を行い、学年全体で子どもを育てている。多くの目で子どもを見守り、理解する体制ができている。 ・学校が楽しいと感じている児童が多く、家庭でも学校の様子を伝えているようである。コロナ以前のように地域での活動や児童主体の取組が多くなった成果と思われる。今後も一層充実させていきたい。（学校生活は楽しい・・・92.1%）	・家庭との連携が必要と思われる。 ・家庭内での言葉遣いも子どもに影響を及ぼしているのではないか。 ・朝のあいさつなどはよくできている。 ・秋頃からあいさつの声が大きくなってきていてよい。 ・保護者より児童の方がアンケート結果があいということは意識が高いという表れではないか。	B
体育・保健指導（体）	○体を鍛え、根気強くやり抜く子どもの育成 ○小中一貫による基本的な生活習慣の育成	・体育の授業や1校1取組を通した体力づくりを推進するとともに、特別活動や清掃活動でも気力・体力を育てる工夫をする。 ・PTAや中学校と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアコントロール」を推進する。（特に中学校テスト期間中）	・教員アンケート「一授業一工夫の体育授業をした」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満 ・保護者アンケート「スマホやゲームの約束を守る」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	3 2	・授業や行事において、学習のめあてと振り返りを大切にし、体力づくりに前向きに取り組んだ。さらに児童の体力、気力の向上につながる取組を展開していきたい。（一授業一工夫体育授業・・・74.2%） ・休み時間に外に出て全員遊びをしたり、委員会による体力向上イベントを企画したりするなど、体を動かす機会は増加している。 ・中学校と連携して、テスト期間中にメディアコントロール週間を設け、ともに取り組んでいる。自分でメディアコントロールの力を付けるための方策と家庭のさらなる理解と協力が必要である。（スマホ・ゲームの約束・・・50.8%）	・児童の体力向上のための取組が必要と思う。 ・メディア週間は、せっかくメディアから切り離して目を休ませるよい期間なので、この期間だけは宿題をタブレットではなく紙などメディア以外にするとよいと思う。紙を配る負担が大変かもしれないので、例えばこの週間は宿題は自己学習にして、最終日に発表などする形でもよいのかなと思う。 ・メディアコントロールは、家庭で親が約束をきちんと守らせることも必要。	B
地域連携	○家庭や地域との連携、幼保小中連携による開かれた学校づくり	・学校・学年・学級だよりやHPで各分掌や学年からの情報発信を活性化させ、一層学校を開く。 ・PTAや地域と連携した家庭教育支援の充実を図る。	・保護者アンケート「学校からの情報発信ができている」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	4	・恩師招待でいただいた意見を参考にし、幼保小連携が充実している。また学校、学年だよりの配付により、学校や児童の様子を適宜保護者に伝えている。 ・行事や学習について、各種通信やHP等を通じて発信するとともに、小さな情報もシグフィーを使って適宜情報提供に努めた。しかし、教職員の不足によりHPの更新が十分行えていない。PTAとの連携もICTを活用して効率化を図っている。（情報発信・・・87.9%）	・他校と比べても、進んでいると思う。 ・シグフィーを効果的に活用していて、 ・以前より、学校は開かれ、数居は低くなっていると感じる。 ・地域と保護者のつながりを作るために地域からのお便りも活用できるとよい。	A
業務改善	学校の組織等 校務分掌における役割分担・協働	・業務が集中しないよう、各学年・分掌・部会等で分担したり、複数体制で協働したりする。	・教員アンケート「分担し、協働して業務にあたっている」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	3	・校務分掌の適切な体制や学年内の業務分担において、ベテランから若手まで、それぞれの応じた人材育成ができている。 ・昨年度と比べ低い評価となった。これは、教員不足により年度途中から業務の負担が増加したためだと考えられる。相談しやすい体制や一人で抱え込ませないという組織の意識向上は維持したい。（協働・・・68.6%）	・先生方は日々本当に一生懸命やっていらっしゃると思う。（学習以前の本来なら家庭で行われるべき基本的な生活習慣等まで先生方がされているような点も感じることがある） ・先生方の頑張りが日々見える。 ・時間外在校等時間が増加したのは、代替教員不足が原因だが、一部の者に負担がかからないようにしなければならない。 ・業務改善のために何らかの対策を施すことが必要。 ・業務時間外に留守番電話が設置できるとよいのではないか。 ・教育委員会のより一層の支援を期待する。	B
	日常的な業務 業務の効率化	・年休簿、旅行命令簿、出勤簿等の電子申請化、健康観察アプリの活用、教材・資料等の共有、分掌データの一元管理等、端末の活用をとおして業務を効率化する。	・教員アンケート「データの管理・ICT活用ができた」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	4	・教室で確認できるシグフィー活用やアンケートのICT化、電話対応時間の縛り上げ等、業務改善が進んでいる。会議の時間や回数も減少している。（データ管理・活用・・・88.6%） ・来年度に向けて校時表の改善を行い、児童の下校時刻以降職員退庁時刻までの間に、今以上に効率的に業務が行えるようする。宇部市教育委員会からの指示でもあったが、働き方改革に向けた動きをさらに加速化していきたい。		
	勤務状況 時間外在校等時間の縮減	・ICTを活用した服務管理や会議の縮小、電話対応時間の設定、出欠確認、」健康観察等、働き方を意識した校務システムにより、時間外在校等時間を縮減する。	・教員アンケート「時間外在校等時間削減に向けた取組が行われている」のプラス評価 4　80%以上　　3　65%～80% 2　50%～65%　　1　50%未満	2	・時間外在校等時間削減のための取組の具現化が少しずつではあるが行われている。しかし、教員不足のため、年度途中から一部教員の負担が増し、時間外在校等時間が増加した。 ・教職員の協働体制は年々よくなり、ベテランから若手まで効率的に業務に取り組む姿勢が見られるようになった。しかし、一部の教職員は、時間外在校等時間が45時間を超えているので、今後も業務改善を図るなかで、時間外在校等時間の縮減に一層力を入れていきたい。（取組が行われている・・・57.1%）		

6　学校評価総括（取組の成果と課題）

■1・2　今年度、学校・地域連携カリキュラムの見直しを行った。それを基に、夏季休業中に「小中一貫教育の充実に向けて何ができるか」について、教職員と学校運営協議会委員で熟議を行い、具体的な取組を計画、実行できるようにした。また、毎日タブレットを使い、ICTを積極的に活用した授業が日常的に行われている。校内研修では「自由進度学習」を柱として、主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、長期研修教員の研究とリンクさせ、全職員が協働で取り組んだ。
■3　これまでと同様に、道徳教育や人権教育、キャリア教育の充実を図るとともに、人権教育参観日に講演会を実施し、児童・保護者・地域の連携による人権意識の啓発に努めた。講演会の参加者が増加するよう考えていきたい。
■4　ふれあい教室の運営が軌道に乗り、不登校の減少につながっている。引き続き担任をはじめ、生徒指導、養護教諭、管理職等が一体となり、関係機関と連携しながら関わり、迅速な対応を行っていきたい。また、いじめアンケート実施や児童一人ひとりに多くの教員がかかわることで、教育相談体制を充実させた。しかし、全児童の希望に100%応え、常に満足できる学校生活を送ることが実現できているかについては課題が残る。
■5　体力向上については、授業だけではなく、委員会の児童が主体となって全校に呼びかけ、休み時間に体力づくりや縦割り班リレー大会などを行い、日常的に運動をする機会を多く設けた。より一層充実した授業が展開できるよう研修を深めたい。
■6　中学校と連携したメディアコントロールの取組は軌道に乗ってきたが、メディアを完全にシャットアウトすることは難しい。学校だけでなく家庭と連携した取組が必要不可欠である。また、低学年のうちからメディアを自己コントロールできる力を育てる取組を継続していく。
■7　教員不足により、教職員の時間外在校等時間はやや増加した。児童の支援と指導がより一層充実するよう働き方改革の目的を見誤ることなく、業務改善も含めて、効率化が図れるよう取り組みたい。

7　次年度への改善策

○1・2　学校・地域連携カリキュラムを今以上に保護者と地域に周知徹底し、実のあるものにしていく必要がある。その上で学習にふさわしい地域教材、地域人材を知り、総合的な学習を核とした教科横断的な学習計画を立てる必要がある。小中一貫して全校体制で「地域で学習する」視点をもてるよう、研修の機会を充実させる。また、「自由進度学習」の取組を継続し、校内研修を活性化させ、児童の学習意欲と学力向上につなげたい。さらに補充学習の時間を水曜日5時間目に設定して学力向上をめざす。
○3　児童が地域行事へ積極的に参加し、多くの人とかかわりながら、さまざまな体験を通してよりよい道徳観や人権感覚が身に付けられるよう引き続き取り組んでいく。また、その取組を地域貢献活動にも発展できるよう一層努力する。地域での体験活動が、児童主体となった活動になるよう場の設定や内容を精査していく。
○4　開設3年目となる「ふれあい教室」の環境をよりよく整え、教育相談や不登校児童・保護者への支援の充実を継続していく。また、教職員全員が同じ歩調で児童に指導ができるように、指導事項の共通理解の徹底を図るとともに、情報の共有について正確かつスピード感をもって行い、温かくも冷静な対応に努める。さらに「いじめ問題対策委員会」や「教育相談週間」等をより一層有効に生かすことができるよう工夫していく。
○5　学校保健安全委員会や学校アンケート等で示された生活習慣と体力向上の課題をPTA総会、PTA広報、学校だよりで、地域広報紙、学校HP等を通じて情報発信に努め、家庭・地域・学校が共通の目標をもち、地域の子どもを育てる気運の醸成と有効な取組の展開を継続して図る。
○6　基本的生活習慣の育成に関しては、中学校との連携をさらに強化し、児童が自分事として進んで取り組み、定着が図れるようにする。さらに家庭との連携をより密にして共通理解のもとに協働で引き続き進めていきたい。
○7　来年度は校時表を見直し、下校時刻から勤務終了までの時間を今年度より週当たり120分増加させる。また、シグフィーや校務支援システム等を有効活用し、効率的に業務が行えるように教職員全員で業務改善に取り組んでいきたい。そのための保護者・地域の理解と協力も呼びかけていく。